

---

# 仮面の娘リーシャ

朝露しずく

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

仮面の娘リーシャ

### 【Nコード】

N6451D

### 【作者名】

朝露しずく

### 【あらすじ】

呪術師の深い呪いを受け、顔に仮面のある皇女リーシャ。彼女はこれを病み、何年にも及び仮面をとろうとするが、仮面はとれなかった。そのころ、「人間」と呼ばれる愚かで弱い種族のアーニヤという少女が現れるが……………。

## （前書き）

この物語は、未知で、不思議で、闇色のレースが重なった物語です。  
不思議や未知を認めない方は、読まないことをおすすめします。

この物語は、未知で不思議で、闇色のレースが重なった物語。  
未知も不思議も信じない方は、読まないことをおすすめします。

「呪いを受ける！」

激しい声と共に、まがまがしい旋律が呪術師の口から漏れる。

「永遠に、仮面をかぶっているがよい！」

そうして、呪術師は去ってしまった。

あれから13年。

皇女リーシャは、まだ仮面をかぶっている。

皇女リーシャは、あることから呪術師の深い「呪い」を受けた。  
理由は、彼女が呪術師の求愛を断ったから。

そして今まで何年にも及び、さまざまな方法が試された。  
溶液をたらず、熱を与える、波動で割る、力を込める……………。  
それでも、仮面はリーシャの顔から去ることはなかった。

「はやく、この仮面をとることができないの!？」

何人もの呪術師におふれを出し、できなかったので首をはねた。  
もう、

この仮面をつけた呪術師は  
死んでいた。

きっと、この呪いを解く鍵を握るのは彼だけだったのに。

そんなある日……………不思議な噂と共に、不思議な少女がやってきた。

「皇女リーシャ様、私とその仮面をとつてみせます」

現れたのは、「人間」と呼ばれる愚かで弱い種族の少女。少女は、自らをアーニヤと名乗った。

「本当？もしその言葉が嘘であれば、そなたの首は釜で煮られることになるわよ」

「では、もしこの言葉が真であれば？」

「そのときは、そなたの好きな望みを叶えてあげよう」

そうして、アーニヤは皇女リーシャの仮面を調べ始めた。

仮面の硬質を調べ、仮面に薬をたらし色の変化を調べ、仮面に直に触れてみたりした。

「いいの？この仮面に触れると、呪われるといわれているのよ」すると、彼女はいつもこう答えるのだった。

「もう皇女様はすでに触られておられます」

この世のものでないような、作り物の微笑を浮かべながら。

アーニヤの片目は、質素な麻布で覆われていた。その片目には、何か秘密があると思っていた。

「そなたのその麻布を取って」

「いくら皇女様の願いでも、それだけではできません」

何度、この台詞を繰り返しただろう。

しかし、アーニヤの調べと共に、ある女性が静かに現れ始めた。  
チエスト。彼女は、自らをそう呼んでいた。

彼女は、アーニヤが仮面をとるのを防ごうとしていた。

「皇女様、最近チェストと呼ばれる女性が私の邪魔をしていますか……」

「わ……わたくしはそんなもの知りませぬ」

「本当でございますか？」

「何を！わたくしを信用しないのでありますか！？」

「失礼しました」

急に、アーニヤの姿がぼやけ始めた。いいや、アーニヤだけでなく、この世のすべてが。

「どうしたの！？すべてがぼやけて、見えなくなっていくわ！」

すべてが、急にまがまがしく、いびつに感じ始めた。調子が狂っていった。

「そうで……ザイマス…カ？」

見え、感じるものがすべて、モザイクのようにばらばらになっていく。

「私ハチェストヨ。アナタガコンナ事考エルカラ……」

すべてが真っ白になった。

「きゃ……ああああああっ！」

最後に聞こえたのは、かつてアーニヤだった声。

「だから、リーシャ様は呪われているではありませんか……」

リーシャ＝チェスト

アーニヤ＝リーシャ

アーニヤもチェストも、そして呪術師も仮面も呪いも全て、皇女リーシャの架空の産物。

故に、彼女は既に死んでいる。

（後書き）

読んで頂き、有難うございました。

この物語、どうでしたか？これは、貴方が今既に同じ状況になっているかもしれないし、明日にでもそうなるかもしれない。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6451d/>

---

仮面の娘リーシャ

2010年10月17日02時47分発行